第５回　鳥取市市民自治推進委員会　議事概要

１　日　時　平成２７年2月１２日（木）１５：００～１６：１５

２　場　所　鳥取市役所本庁舎　４階第２会議室

３　出席者

（１）委　員　　池井委員長、渡邊副委員長、佐藤委員、佐々木委員、福島委員、四宮委員、岡村委員、高塚委員（順不同）　委員出席者８名

（２）鳥取市　　馬場協働推進課長、岡本協働推進課課長補佐、岡田協働推進課主任

（３）傍聴者　　１名

４　議　事

（１）協議事項

①　参画と協働のまちづくりフォーラムの検証【資料１】

≪事務局説明≫

（委員）

託児の実績を教えてほしい。

（事務局）

託児については、２名の利用があり、子どもの年齢によりスタッフが２名必要ということで、３，５００円の２名分で７，０００円の支出となっている。

②　市民自治推進委員会意見書の策定について【資料２】

≪事務局説明≫

（委員）

意見書について、事務局から「１市民自治推進委員会の委員になって」や「２市民自治推進委員会の活動を振り返って」は、個人の意見を並べていると説明されたが、例えば４や５の「市民まちづくり提案事業や市民活動表彰の審査を行って」については、この制度について委員全体としての意見と捉えて良いのか、それぞれの個別の意見として捉えたほうが良いのか、どちらのウエートが大きいのか。

（事務局）

審査を行われて、委員の皆さんからいろんなご意見をいただいた。ひとつの方向でまとめる

のは難しいが、ある程度同じような意見もあり、委員全体の意見として掲載させていただいたつもりである。

（委員）
　そうすると、5頁の上から8行目のところで、市民活動表彰の審査を行った結果、『表彰対象は団体・組織とすべきです。』と断言されている。これは、全体の意見として捉えられるがよろしいのか。

（事務局）
　そのあたりは個々の意見をまとめているので、皆さんのご意見によって、修正なり加筆なりさせていただければと思う。まったく同じ意見というのは難しいと思うが、ある程度委員会の意見としてこの場で修正していただければと思っている。

（委員）
　この表彰制度は、要綱で「市民活動団体および事業者を表彰する」と明記されているので、そのあたりの整合性が取れないし、例えば審査後、全体でそういう意見が出たのであればいいが、個人の意見で断定されるのは、あまりにも検討されていないのではないかと思う。あまりこの議論をしていないが、個人の意見なので、自分を含めて皆さんが思っていたことをストレートに書いている。事務局としてどの程度それぞれの書いた思いを斟酌されたのか疑問に思う。
　平成２０年度からの表彰の実績を見てみると、個人の方もかなりいらっしゃる。今年は確かに特筆すべき事項があったので、私自身もこのように感じたところもあるが、皆さんはどうだろうか。

（事務局）
　市民活動表彰は従来からずっとされているが、その対象者として、市民活動に取り組まれていて、顕著な功績はあるが表に出てこられない方に日を当てて行こうという気持ちから発足した制度だと思っている。ただ、個人的に、経年して対象者が増えていく中で審査が厳しくなっているとは感じている。委員会の中で、応募者を厳しく選考していこうという気持ちの方がたくさんいらっしゃるなら、検討するに値するのではないかと思うが、現在選考される皆さんがどのように感じられているかのご意見などがいただければと思う。

（委員長）
　今の話について、何かご意見があればお願いしたい。

（委員）
　今の話は、委員会として決まった見方はどうあるべきかということだと思う。
　この委員会での意見具申やこの２年間の活動について、多数決で意見をまとめたり、少数意見を排除して多数意見を届けたりするものではないと思う。より発展的に地域づくりを推進するために、それぞれ委員の所見はどうあるべきか、このようなことを改善してほしいといった意見を取り上げていただき、それを最終的には、執行部、市長、あるいは議会がどのように判

断するのか、予算をどうするのかとなるべきであって、必ずしも委員会の多数意見だから統一意見として一本にまとめることをしなくても良いのではないかと思う。例え一人の意見でも確かにそうだと執行部が判断して、改善に向かっていけばいいと思う。

（委員）
　もともと市民活動やコミュニティ活動などは、それぞれ住民の皆さんが気軽に話し合ったり、協議したりして、みんなの意見を聞きながら地域づくりをし、コミュニティを発展させるということから始まったのではないかと思う。個人的にはいろいろな意見があっても良いと思うので、団体・組織にという個人の意見を聞いて執行部が決めても何ら差し支えないのではないかと思う。
　特に今年度以降は、地域の人たちとコミュニケーションを図って地域づくり、まちづくりを遂行していこうと、本市だけでなく、日本全国で活動を広げて地方創生に繋げていく大事な時なので、あまり画一的に型にはめるのはいかがなものかと思う。

（委員長）
　だいたい同じような意見だと思うが、ただ少数意見をつぶしてしまうわけにはいかないので、建設的な意見は拾っていくことが必要ではないかと思う。こういう意見もあったという事を明記しておけば、委員会の趣旨として意見も拾えるのではないかと思うが、事務局からの意見を聞きたい。

（事務局）
　委員の皆さんが一同に会して出た意見ではなく、それぞれ個々に書かれたものなので、相反する意見などもあって、言い回しなどでおかしいところも出てくる。記載するにしても、断定している言い回しなどは、修正していくこともできると思う。
　なるべく皆さんのご意見を削らないよう載せたので、このようなご意見をいただくのだと思う。
　今のままだとこれが表に出た時に全体の意見だということになるので、こういう意見も一部あったという形に変えさせていただく。

（委員長）
　全体として特にご意見がなければ、ひとつずつ注意して見ていただいて、相反する事や少数意見でもそれなりに意義があるものなどは拾って、あまりがちっと決めるのでは無く、こういう意見もある、こういう意見もあるということで、市長さんなりに判断していただける材料を提供できればいいと思う。

（委員）
　各項目で、来年度に向けてどうしたら良いかということを皆さんにお聞きしたい。
　まず、鹿野で開催した「参画と協働のまちづくりフォーラム」である。私は、鹿野でやった本年度のフォーラムは良かったと思う。残念だったのは、予想していたよりも来場者が非常に少なかったということ。立派なパネラーの話を聞かせていただいて、会場の皆さんからも意見

が出た。意見があるということは地域づくりについて関心を持っている証拠だから、あのような取り組みは大変良かったが、天候のせいもあるのか、もうちょっと人が多かったらと思った。PR の方策としてチラシやポスター、市報でも取り上げていただいたが、どうしたらもっと人が集まってもらえるのか、その辺の知恵や工夫について、忌憚のない意見をお聞かせいただきたい。ある地区公民館長さんにお願いして、お年寄りの学習講座などいろんな行事の際に、来場された人への呼びかけやチラシの配布など、かなり積極的にやっていただいた。町内会にはポスター掲示板が３か所あるので、今年度は大きなポスターを貼った。また、毎月通っているかかりつけの病院や歯医者さん、パン屋さん、スーパーマーケットなど、近くのたくさん人が集まられるところにもポスターを貼ったが、この機会にこういう具合に網掛けしたらもっともっと人が集まってもらえるのではないかという知恵があれば、ご意見を聞かせていただいて、来年度に活用していただこうと思う。

（委員長）
前提として、来年度のフォーラムの予算要求はされているのか。

（事務局）
結論から申し上げると来年度のフォーラムの予算はない。
平成２７年度は新しい委員さんで議論していただくことになるが、時期的なことや参加人数が少なかったことも踏まえて、1 年目は検討の期間ということにしていただき、２年目に単独実施でフォーラムを開催したいと考えている。そのような理由から平成２７年度のフォーラム開催の予算はないということになっている。

（委員長）
それならば、いろんな意見を言っても再来年の話になるということか。去る者が言ってもだめだが、こういう活動を続けていくことは、市長の姿勢ではないかと思う。確かに条例などを作っているが、賛成反対ということではなく、旧市においては立派な市庁舎を建てておいて、周辺地域ではこのフォーラムの４０万円ほどの予算を削らないとだめだという姿勢はどういうことだという感覚を皆さん持たれると思う。青谷や鹿野や気高や佐治の人が聞かれたら何だろうという感覚を持たれると思うが、委員の皆さんはどうお考えか。

（委員）
事務局からは、来年度のフォーラムの予算措置はなく、新しい委員さんの中で議論をという趣旨のようだが、フォーラムといった事業は補正予算ではなかなか通りにくいと思う。補正予算は、緊急対応しなければならない場合に組むのであって、この手の予算は当初予算にあげておかないと、議会を通すにも緊急性、必要性が問われるので、なかなか難しい話だと思う。仮に新しい委員さんの中で必要性を認めてやってほしい、やりましょうと言っても予算措置はできにくいのではないかと思う。せっかく道をつけた単独開催が心配である。

（委員長）
ただフォーラムの検証ということと同時に、次に続けていこうということだから、次が無い

のに検証してみても仕方がないし、次のことはまた新しい委員さんでやれば良いということになるのか。

（事務局）
　要求はしたが、財政当局の理解が得られなかったということもある。
　今年度は１１月の開催だったが、平成２７年度は話をしていって、後半に実行委員会を開催するような形で、平成２８年度に入ってすぐにでも開催したいと事務局としては考えている。時期的なこともあるので、その辺でご理解いただきたいと思う。

（委員長）
　４番の「市民まちづくり提案事業」について、皆さんからもいろいろとご意見をいただき、私も昨年度の報告書で書かせていただいたが、応募団体が非常に少ないと思う。せっかく高額な財政的支援制度を持ちながら、広域的な鳥取市の抱える課題を取り組むのにもっともっと活動していただける団体があるのではないかと思っている。来年度に向かっていろいろと網のかけ方を検討して応募団体が増えるように考えなくてはいけないが、今のやり方は、課題をもった都市整備部、経済観光部などの部署がこれはと思うところ、例えば商店街や地域に対しての呼びかけだけで終わっているのではないか。今の網のかけ方はどうやっているのか、事務局から聞かせてほしい。

（事務局）
　市民まちづくり提案事業の協働事業部門は、課題を市側から提案するが、市としてはまず各課に課題の募集をかける。それからテーマを絞って、市報などで広く声をかけて公募するのだが、やはり担当課も直接ニーズにあった団体に声を掛けている状況だと考えている。

（委員）
　この場で決定しようというのではなく、来年度はまた新しい委員で呼びかけの仕方を工夫したほうが良いと思うが、関係団体へ呼びかけをして、そこから推薦してもらう方法もあるのではないか。こういった課題に取り組むのは、感覚的には青年商工会議所さんがかなり積極的だと思う。ご存じのように公益社団法人の組織であり、経営者の２代目、会社で言えば専務、常務といった若手の方が、地域の活性化に対して具体的な取り組みをやっておられて、そういうことに目を向けている商店街や地域の団体などの情報を十分持っているのではないかと思う。商工団体もいろいろあるが、私の認識としては青年商工会議所の活動が具体的だと思っていて、テーマに手を挙げる関係団体の幅を広げることになるのではないかと考える。
　せっかくなので皆さんで良い方法やご意見があれば聞かせていただき、来年度の運用に向けていただきたいと思う。非常に高額な補助制度なので、応募する団体がもっともっとあっても良いと思う。

（事務局）
　今のご意見は、行政からのテーマに対して、青年商工会議所などに声を掛けて募集したら良いのではないかということか。

（委員）
　例として青年商工会議所を挙げたが、経済同友会でも JA でもいいかもしれない。テーマに関連して認識の深い団体への推薦や呼びかけがあってもいいのではないか。そうした方がもっと応募の幅が広がるのではないかということである。今は、市報を細かく見ていなければなかなか気が付かないのではないかと思う。特に郊外の商店街は、駐車場もあって広く人が集まるが、中心市街地は寂れていく。鹿野街道、智頭街道の商店街などは危機感をもたれていると思う。それに灯をつける市の行政改革としてやっていこうという手法がいるのではないかと思う。

（委員長）
　鹿野街道振興会という名称だったと思うが、鹿野街道では毎年鹿野街道まつりをやっていて、交通も遮断して鹿野街道筋の人が皆さん参加されていて面白そうだったので、私も３回ほど見に行った。市の補助金を受けてやっていると聞いているが、どの課がやっているのか。
　４の市民まちづくり提案事業で、例えば福部や青谷地域の人達にフォーラム開催を考えていただき、この補助金を使って事業をするというリードのやり方がないものかと考える。それならば予算がついていなくても次年度でもできるし、これが本来のまちづくりではないかと考えるが、検討していただけないか。

（事務局）
　それは、行政テーマとして、検討するということか。鹿野街道まつりの担当課は承知していないが、ご意見として承る。

（委員）
　まちづくり協議会は６１地区で設立されていて、それぞれ４０万円が限度の補助を受けて、１，０００人ぐらい集まる大きなイベントなどいろいろな事業をやっている。まちづくり提案事業に応募しようと思えば、去年の殿ダムのようなものだと補助金が重なってしまうので、なかなか応募しないということがある。
　また、ほとんどの団体が従来の市民活動をやっているところが多かったので、地区単位の団体でやっているものは別だと思っているところが多い。なので、参加してと言ってもこれは関係ないと参加しない人が多い。通常、町内で何人ぐらいと割り当てを出すが、他のものだと勘違いして自分たちも関係するという感覚がないように思う。自治連の会議でもいろんなＰＲをしていただいたが、当日来た自治会長は３人しかいなかった。このあたりが、１９団体の中に全部入っているから全部が関係するんだと気持ちが足らず、参画してみようという気持ちにならなかった。
　良くないかもしれないが、まちづくり協議会は６１地区あるので、例えば２人以上の参加をお願いしますという割り当てを依頼したらどうだろうかと思う。
　人権教育は、必ず各地区に何名以上出てくださいという依頼がくるので、１，０００人、２，０００人の会になる。そのような形で依頼するのはおかしいかもしれないが、検討すれば自治連も参加して発表してみようかという気持ちも湧くのではないかと思う。まちづくり協議会でも活発に活動しているところも多くある。発表する場が県などしかないので、全部の名前が知

られていないが、そういうところも意識すれば広がるのではないかと思う。

（委員長）
　まだまだ市民の感覚では参加意識がないので、１７頁の表を見ながら、確かにある程度お願いしないとだめかな、少しそういうことをやっていただいた方が良いかなという気がする。今までの意見に対して、何かないか。

（委員）
　それぞれ言われていることは確かだが、鳥取は人集めが難しいところである。若者を集めるためには、メリットを提示しないとだめで、そこも考えながら、紙媒体だと若者は集まりにくい。賑わっている、盛り上がっているという噂が集まる要素になる。そのあたりを今後考えてやっていけばいいのではとないかと思う。
　私は３０代だが、自分より上の世代と下の世代の関係を第三者的に見てみると、２０代の若者は自分のお父さん世代の言うことをあまり聞いていない。相手にしない感覚で流して、さっとあしらって自分たちの考えを優先してくるので、そこも理解して展開をしかけたほうがいいのではと感じている。
　自分の考えを相手にぶつけるばかりじゃなく、相手の立場になって考えてみようという発想もして、鳥取市には全体的に底上げが必要だと考える。変化を恐れるまちなので、変化をしたらどんなに楽しいかということをこのまちづくりの中でどれだけ伝えていけるかが今後の課題になると考える。
　地方創生が何なのか答えが出ていないので、これから見つけて結果を出したところが答えになっていくのだと思っている。日本全国で鳥取はある意味答えが出しやすいまちだと思う。これからどのようにしていけば良いのかと考えている。

（委員）
　各委員さんのお話を聞いて、正直なかなか難しいと感じている。
　底上げしていくにしても、まちづくりに若者が集まれば活気が出るが、高齢化社会なので高齢者を優先しなければならないのではないかといった考えもあり、どこに軸足を置くかが難しい問題であると思う。だからこういった委員会でもいろいろな年代や立場の人を呼んで意見を戦わせた方がいいと思った。一方的な意見の人が集まるのではなく、広く意見が求められるような委員会であって、吸収できる場であればいいと感じている。

（委員）
　先ほど言われたように、各地区のまちづくり協議会といった地域の方とフォーラムを共催する事業があれば、その地域の活性化になると思う。私たちも、毎年年末にフリーマーケットを行っているが自分達だけが実施するのではなく、他の団体が同じ建物の中でやっていると、そちらに来られる方にも見ていただけるし、お互いの利益も得られる。今回初めて鹿野に行かせていただいたが、雨も降っていたからか来場者が少ないという感じを受けた。その地域の行政の方もたくさん来られていたと後で聞き、そのことは良いことだが、市民の方が少なかったのではないかという感じも受けた。

（委員）
　フォーラムを開催した鹿野町内の福祉委員に、実施場所である『しかの和泉荘』はどこにあるのかと通りがかりに聞いたら、「『しかの和泉荘』はとっくに無くなった。」と言われた。前の建物が無くなっていたことは知っていたので、新しい『しかの和泉荘』はあるはずだと言ったら何をやるのかと言われた。福祉関係の仕事をしていても知らなくて、こういう回答が出るのはどういうことかと思ったが、フォーラムの内容は大変良かったと思っている。中身の濃いフォーラムだったと思う。
　来年度以降について、もちろん高齢者の方も尊重しながらも、活力のあることをしようとすれば、ある程度若い人に企画をお願いして、若者を中心にやってみようという形にならないと従来と同じようになるのではないかと思う。
　第６期の福祉計画をつくる中でも、市長をトップに決断力、指導力を持って、鳥取市をあげてやらないとまちづくりは出来ないのではないかと思う。各担当課が個別にする活動ではなく、協働推進課も高齢社会課もすべてが一緒になってまちづくりを実施する、それが地方創生に向けて活力のある鳥取市にするんだということにならなければならないというような意見もでて、だいたいそのような方向でこの２月に固まったところである。
　来年度以降この委員会の活動ももっと幅を広げ、掘り下げ方ももっと深く、２年毎、３年毎の話ではなく、発展的にとりあえず１０年間にこういうまちにしようと委員会でやって推進し、委員が代わっても先を見た活動になることを期待している。

（委員長）
　確かに言われるとおりだと思う。
　次の任期の委員会では、条例改正はやらなくていいのか。

（事務局）
　条例施行の日から４年を超えない期間ごととなっており、前回の改正が平成２６年４月１日施行なので、平成２８年度ごろには必要ではないかと思っている。

（委員長）
　各委員さんがおっしゃられたことをまとめると、フォーラムの形にもなる。フォーラムの予算はついていないということだが、自分たちのまちづくり協議会のお金を使うわけにはいかないので、先ほど言ったようなことを検討していただき、この地区の協議会でこんなフォーラムをやっていきたいということをリードしていってほしいと思う。
　次回は、今日の意見も入れてまとめたものをフィードバックして送られてくるのか。次は最終回だが、そこで報告書が完成して提出するということになると思うが、原案としてはいつごろになるのか。

（事務局）
　次回の第６回は意見書の提出になるので、そこでの修正はできない。今日の議事録とあわせて、今日の内容を盛り込んだ意見書をお送りするので、時期は未定だが、またご意見をいただ

けるようなるべく早くお届けしたいと思っている。

（委員長）
　時期ははっきり言えないが、なるべく早く、みなさんの都合の良い日程を調整して設定させていただく。

（委員）
　この意見書は皆さんが書いたものをまとめたということだが、読んでみると足し算したような書面になっていて、同じようなことが二重三重になって出てきている。特異な意見を私も書いているが、そのまま掲載されて、これは良いのかと思う部分もあるので、全体の話ではなく一人の意見だと分かるように、こういう意見もある、こういう意見もあるということが分かるような文面にしていただきたいと思う。同じような意見は同じような意見としてとりまとめてもらって、昨年の報告書はそのようにまとめられていたと思うので、他にもこんな意見もある、こんな意見もあるという書き方に手直ししていただければ大変ありがたいと思う。

（事務局）
　極力皆さんの表現に則った形でまとめたものになっている。それをさらに文章化すると表現自体も他の人と合わせて、均す形になると思う。それをご了解いただいた上で文章をまとめるという形でよろしいか。

（委員長）
　皆さんに了解していただいたのでよろしくお願いしたい。

（事務局）
　極力努力するが、お送りさせていただくので、ご指導をお願いしたい。
　事務局から、意見書の中で一点お願いしたい。６頁の「７地域コミュニティにおける協働のまちづくり」について、下から７行目の『まちづくり連合会の組織作りが必要ではないかと考える』という意見がある。これは、昨年１０月に６１地区のまちづくり協議会に協議会連合会が必要かどうかのアンケートを実施したが、『組織化したほうがいい』というところが１３地区、『組織化しなくてもよい』というところが３５地区、『検討会を設ける』というところが１２地区という結果だった。『組織化したほうがいい』というところが１３地区あったが、今週月曜日に事務局長を務めている地区公民館長会で、連合会のような組織を作らずに情報交換のための研修会を開催するということで了解を得た。なので、事務局としては、『組織づくりが必要と考える』という部分を掲載しないこととさせていただきたい。

（委員長）
　事務局で対応していただければ構わないと思う。

（事務局）
　了解した。

（委員）
　まちづくり協議会は、平成１９年から設立準備が始まった。初めは香川県の方をある程度参考にしながらあわせていこうということだったが、各地区でそれぞれ実情があってそれはできないので、地域の実情にあわせて良いということに後で変わった。６１地区ある中で、同じ運営方法はないというぐらい全部違っている。あるところでは防災関係のことしかやっていないとかイベント関係のみとかさまざまである。この間も桜ヶ丘ブロックで防犯関係の会合をやったが、若葉台では子どもたちを主体にしたおばけやしきだけとか面影地区はいろんな団体が一緒になってやっているとか津ノ井はイベントしかやっていないとか、私のところは全部やっていて、設立当初からやっている自治会も一緒だが、ところによっていろいろである。このアンケートで『組織化しなくてもいい』というのは、協議会ごとにさまざまであるから不要という感じもするし、『組織化したほうがいい』というのは、事例発表を聞くことで情報交換になって発展できるのでやってほしいという意見もたくさんあるが、同じ形にまとめるのはどことも難しいと思う。

（委員長）
　他にご意見はないか。

（事務局）
　次回の日程は、３月下旬ぐらいで調整したいと思っているので、あらためて相談させていただく。活動計画にも載せているが、最終回なので今年度の活動の総括および任期中の総括にもなる。当初お伝えしたとおり２年の任期が３月までということになるが、現委員さんで来年度の活動方針や計画案を作成していただき、来年度の委員さんで決定していくことになる。最終回となる第６回の会議ではその内容も検討していただきたいと思う。
　修正した意見書を市長に提出していただきたいと考えているので、よろしくお願いしたい。
　また、この委員会委員の募集を今月いっぱい行っているので、是非、声掛けや自薦でも結構なので、応募への協力をよろしくお願いしたい。

（委員長）
　平成２６年度の意見書は、３月の委員会で直接市長に提出することになるのか。

（事務局）
　市長の日程も合わせて、その日に直接市長に手渡す時間を持ちたいと思っている。

（委員長）
　委員会の場でということか。執行部から市長に渡すのではないということか。

（事務局）
　今想定しているのは、予定している審議事項を終えてから、最後に市長へこの報告書を委員長から渡していただこうと考えている。

（委員）
　委員会の委員長が直接市長に報告書を渡すという形で設定してほしい。その時に、せっかくだから市長との意見交換会の場を設定してほしい。渡して終わりではなく、２年間を振り返っての思いもあるだろうから、そのあたり市長と忌憚のない意見交換の時間をセットしていただきたい。

（事務局）
了解した。

５　閉　会　16：15